高倉昔話し芝居

高倉郷土芸能保存会
平成二十三年二月新年会
高倉公民館初演

十五番　明治の一村一社令

木　二ツ

解　説

明治の中ごろまでは、どこの村にも、大小の神域がいっぱいあった。この高倉にも、東の八幡、浅間山の浅間様、天王山の八坂神社、又、稲荷様が三ヶ所、それに氷川神社と神様が七ヶ所もあった。ところがこの多い神域を各村に一ヶ所残してみなそこへ合社すると云うのが、明治政府の一村一社令であった。

今回は其の中でも一番の大行事であった浅間神社の解体合社のお話しを致します。

①　ニンバ　開幕

名　主　「さあみんなア、そう云う訳だア　お上の云うことにゃあ逆れえねえなあ、さっき、渕っあんにお祓いしてもらったあから心配あんめえがなア、まあ怪我あしねえよに気う付けてやってくんのうーい」

脚立へ

亀　三　「じゃよう登んでえ、おい、この脚立ア　アルミ製だなア、木でなくっちゃあまずいじゃあねえのかい、あにしろ明治の話しなんだかんなあ、ウフフ、芝居だからいいのかア　ああ木だア　木だア　チーン　チーン」

鶴　三　「へだら云ってんじゃあねえ、おっこちねえように気うつけろい。それ　カケヤだあ、それ」

ガッタン　ガッタン　ギー　ギー　解体し乍ら

四丁目ばやし　閉幕

②　鎌倉ばやし　開幕

先　達　「あーあ、ひでえ事んなっちゃったなあ
お上も罪なお布令え出したもんだよう、アアア
浅間様ア　無くなっちゃったよう
あれえー　だれか居るようだなア
おーい　そこに居んなあ誰だい　あにかあんのかよう」

盗　人　「なに　なにもありゃあしねえよう、良く片付いてらい」

先　達　「あれえ、お前、知らねえ野郎だなあ、見た事あねえなあ
何処の野郎だか顔っつきも良かあねえようだなあ」

盗　人　「おう、じいさんかア、面が悪いたあ、まいったなあ
でも、其の通り、お見掛け通りの盗人よ、泥棒様よ、
けど、じいさん、まだ何もとっちゃあ居ねえ、
とらねえうちゃあ、普通の人間様よ安心しな。
ところでじいさん、もし、もしだよ、この本殿の奥かどっか
にお宝があったとしたら先ず何処え持ってったと思うい
ええ、じいさん」

先　達　「まったく、じいさん、じいさんて、おんの方が若えのに
なあ、まあこんな、貧乏村のこったあ、お宝なんざあ有りっ
かあ無えがな、もし有ったとすりゃあ、あんつったって氷川
様へ納めべえよう」

盗人　「へーえ　其の氷川様ってなあいってえ何処にあるんでえ」

先達　「あんだあ、お前、氷川様も知らねえのかア、こっからなあっちへ七、八町行ぐとなあ、滝坂ちゅうそりゃあひでえ急な坂があってなあ、そこのでっけえ森がもう氷川様よう行きゃあすぐわかるよう」

盗人　「ふーん　有難とよ、ところでじいさん、何処でも一番大事（でえじ）にしている幣束う杖になんかしちゃってよう、そんな面白えシャッポなんか　かぶちゃってようじいさんは一てえ何者だい、家あ何処だい」

先達　「うー　おらあこれでも　この浅間様の先達よう家はそれ　そこだよう」

盗人　「何、先達様、じゃあなかなか、えれえじゃあねえか、ずい分でっけえ家に住んでんじゃあねえかよう、いい暮らしいしてんだなあ、でもじいさん、お上の一言で浅間様あ無くなっちゃったなあ、情けねえ世の中だぜ」

先達　「全く其の通り、目の前の浅間様あ無くなちゃったよう、毎日泣いてるようだよう」

盗人　「そうかい、そうかい気の毒だが仕方がねえ、元気い出してくんなよ、そんな泣いてんだか、笑ってんだか、男だか女だか訳んねえような面あ止せよう」

先　達　「そりゃあ俺だっていい顔をしててえよう、でもまあだ面あ取っけえた事あねえよう」

盗　人　「当たり前よ、ちょいちょい面あ替えられてたまるかよう俺が　じいさんだか、じいさんが　俺だか　誰が誰だかみんなごちゃごちゃでわかんねえで、大騒(おおさあ)ぎんならあじゃあ　じいさん、俺あボツボツ行くぜー」

先　達　「おう　俺も　元気い出すかんな」

盗　人(観客へ)　よ　又来るぜ、え　泥棒様にちょいちょい来られても困るってかあ　ア　ハハハハハハハ」

鎌倉で引込み

鶴　三　「おとっつあん　迎えに来たでえ、もう夜飯(よめし)だとよう」

先　達　「あいよ」

亀　三　「アレアレ誰か来んでえ、こけえ隠ねて見ててんべえやあおとっつあん」

三太郎　「さあ　行くかい兄貴」

〈「さて、ヤッセホイセのホイセッセときたあ、ホイセッセのホイサッサってかあ

一　平　〈「おいおい本当にあんのかよう、こんなに暗くって訳んのかよう

三太郎　〈「そらあ有んとも昨日のことよ賽銭箱を叩いた前に用意の袋えいっぺえせえて誰も知らねえ神社の裏のオハチメグリの其の底え、隠した銭ア忘れねえ　とくらーい

（手探りで袋を探す）

あ、有った有ったよでっかい袋、袋いっぱいじぇじぇこがあった、これで当分遊べるかってなー

一　平　「シー　声がでけえよう、おめえは　ああ良かった良かった早く持ってずらかんべー　早えとこよう」

鶴　三　「おっと待った、　太郎親分とこの一平に三太郎だなあ親分にゃあ毎日這あからこの事あ良く云っとっかんな」

三太郎　「ヒエー　勘弁してくらっしぇえよう　勘弁してくらっしぇえよう」

一　平　「親分に知られたら追い出されちゃあよう、俺等あ行ぐ所あねえだよう、見逃してくらっしぇえよう、見逃してくらっしぇえよう」

鶴　三　「ふーん、しょうがねえじゃあだまっててやんべえ、其の代り罰金だなあ　うう、ずい分懐あふくらんでんなあ、さあ出してもらあべえ」

一　平　「あーあ、あんでも良く見通しだなあ、へへ百文でえ」

亀　三　「ずい分でけえ銭だなあ、じゃあこの袋と百文も一緒にこっそり名主様へ届けとくかんな誰にも訳りゃあしねえよーじゃあ気うつけてなア」

三太郎　「ああ又どじゅう踏んじまったなあ、でっかい百文もとられてよう　あああああ」

鎌倉ばやし　閉幕

解説

こうして解体、運搬、再建と村人の協同作業は長期間村をあげての大奉仕であった。しかしこうした協同作業は、全村大半が農家のこの時代、農隙期の合同での工事は、いろいろ覚えられなかなか楽しい場でもあった。

③ ニンバ　開幕

名主　「まあみんな、そういう訳だ、みんなのお陰でこの通り氷川様に社務所が出来上がった、さあみんな、上がった、上がったあい」

先達　「じゃあみんな、上がらしてもらうべえ、ここにゃあ氷川様が一棟きり無かったけんど社務所が出来て格好がついたい」

鶴三　「ずい分広えもんだなあ、氷川様あ、三間に一間半だけんどよ、こっちあ三間に二間だかんなあ浅間様あでかかったなあ真中の奥へ延びてた本殿の覆屋(おいや)あ渕っあんで引取ったとようまあこれで一段落だあー」

亀三　「そらあ、よかった、よかった、目出てえ、目出てえ、お祝いだ、お祝いだーい」

名主　「さあさあ、今日はそう云う訳でゆっくりやってくんな
みんなで運んでくんな　みんなで運んでくんな
どんどんやってくんな　どんどんやってくんな」

亀三　「ああ、酔っぱらった、酔っぱらった　カンカンノーで祝あべえや」

カンカンノー　幕

解説

このように各村々での一村一社が令実行され、扇町屋の山王様跡、黒須の三原の天王様跡のように各地区に神社の移転跡が見られる。しかし、中には久保稲荷、小谷田の稲荷の二社はあまりに社地が広く古木も立派で月日がたつにつれて未置となった例もある。

今回は明治の一村一社令を思い起こしていただきました。

誠に有難うございました。

配役		裏方	
名主	政衛門	解説	
先達	幸衛門	笛	
盗人	不明	太鼓	
鶴三	百姓	幕引	
亀三	百姓	照明	
一平	太郎の子分	拍子木	
三太郎	太郎の子分	擬音	